

■生産情報

① 葉緑素計(SPAD)を活用した取り組み体制強化

JA佐渡では、発育状況の把握や追肥量の管理に役立つ葉緑素計（SPAD）の貸し出しを今年度から開始しました。生産者さんに活用して頂けるように研修会内で活用方法の紹介を行っています。ここ数年1等米比率を引き下げた要因となっている高温登熟下においても、SPAD値に基づいた穂肥診断が有効な方法だと言われています。

JA佐渡は多くの生産者の方々にSPAD計を活用して頂き、外観品質の向上と適正な玄米タンパク質含有率の目標達成の両立を目指します。



② 品質・収量確保に向けた穂肥作業

穂肥の良否でおいしさや品質収量が決まります。
適期・適量の施用で高品質のお米を目指します。



③ JA佐渡次世代へつなぐ農業への取り組み

～佐渡島内保育園で「バケツで出来るお米づくり体験」出前授業～

JA佐渡では次の世代に農業が繋がる取り組みとして、担い手研修制度や子供たち向けの農業体験の出前授業を行っています。

党内の小学校や保育園などで取り組んでいるうちの一例として、佐渡市立夷保育園で水稻指導員がお米の先生となってバケツで出来るお米づくりを紹介します。園児2人で1つのバケツ稲の管理を4月から取り組んでいます。

7月中旬の穂肥体験をした際に、園児から「みんなと同じようにしているにも関わらず、担当している自分の稲の葉が茶色くなってしまったところがあるのはどうして？」と質問があがりました。水稻指導員から病気じゃないことを理解すると安心し、「よかったね。美味しいお米になってね。」と稲に声を掛けていました。



■ 出荷情報

佐渡の農畜産物を全国に向けてPR

3月10日(佐渡の日)にJA 佐渡畑野倉庫でラッピングトラック第2号車の出発式が開催されました。この第2号車は佐渡産農畜産物の認知度向上の取り組みとして、佐渡市、佐渡汽船運輸株式会社、JA 佐渡の三者が協力し運行することとなりました。佐渡を代表する佐渡米やおけさ柿の他にも様々な農畜産物を佐渡米輸送トラックに描き、走る広告塔として全国を走ります。



佐渡産直ネット「さどまるしえ」

さどまるしえとは、佐渡の生産者や農産物を直接指名し購入できるオンラインの直売所です。生産者の顔が見える安心安全な食材をお届けします。

詳しい内容は販売企画課までお問い合わせください。
お問い合わせ先：einoukouho@ja-sado-niigata.or.jp



さどまるしえのHPは
こちらから♪